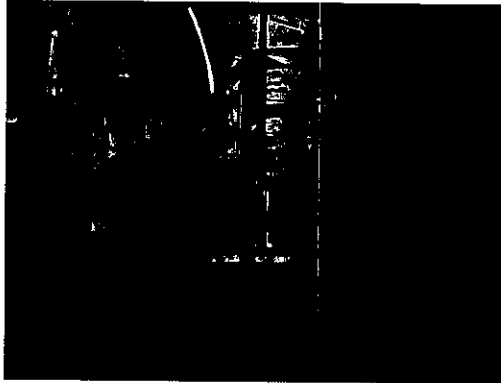


蕨市衛生センターの 速やかな復旧と再発防止対策

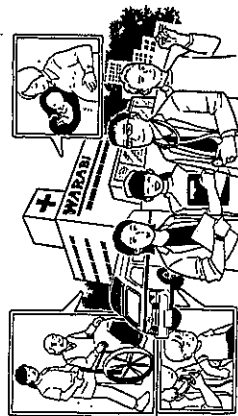
7月12日に発生した蕨市衛生センターの火災により焼却施設は現在停止しており、1日70トン程度出る可燃ごみは、複数の自治体や民間企業にごみ処理をお願いしております。現在3月の再稼働に向けて動いておりますが、ごみ処理委託費、約18億円や焼却復旧工事費、約21億円など、計41億円もの費用がかかるとなり、9月議会で蕨市の負担費用を承認したところです。(計41億円に対し国の補助、保険適用、戸市との協分なども有りますが、リチウムイオン電池が原因だった可能性は排除できないとして、整備の在り方や再発防止対策を求めています。わらび未来の会としても、ごみの削減に寄与する生ごみ処理機の補助などを提案・実現いたしました。引き続き市民の皆様にはごみの一層の分別と削減を併せてお願いいたします。



火災の発生現場 (拡大ごみ焼却棟下)

蕨市立病院に関する 重点要望

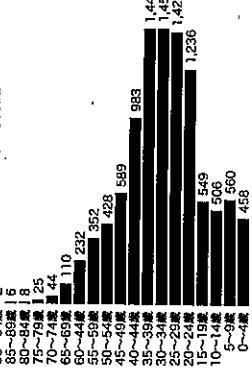
市立病院は移転替えの基本設計を進める重要な段階にあります。同時に昨年度の赤字が約8.5億円となり経営改善は避けて通れない課題です。医療収支の改善、診療体制の強化、地域包括ケア病床の有効活用を着実に進めなければ、将来の持続可能な運営は困難です。市民の命を守る観点として信頼を得るため、わらび未来の会は経営健全化と事業の透明性を強く要望しています。



外国人住民の地域共生を 強く打ち出した第二次多文化 共生指針策定を要望!

今や蕨市民の13.7% (10,544人) を占める外国人住民のライフステージが進み、保育・教育・老後支援など多世代にわたる課題が顕在化してきております。市民として共に暮らす視点から、具体的対応が求められていきます。外国人住民の地域共生を軸におき多文化共生を実践的に捉えるよう要望を続けます。

外国人住民の年齢別人口
(令和7年9月現在)



働く世代に加え全年齢の人口が増加傾向

わらび未来の会 活動報告

特定連携している蕨市片晶村にて、児童発達支援センターの建設に
蕨市が費用を負担し5か年計画で進捗する「わらびの森」を築きました。
同施設のバリエーションへの活用をめぐりてまいります。



蕨市×片晶村 森林整備の実施に関する協定

わらびの森

わらびの森にて 令和7年10月8日
写真左から金丸、岡田、古川、大石、比企、佐野、橋本

このたび新たな会派「わらび未来の会」を7月に結成いたしました。私たちは地域の課題に真摯に向き合う、志を同じくする仲間と共に新たな一歩を踏み出しました。

物価高騰や少子高齢化、災害への備え、地え続ける外国人住民との共生など、社会は今、大きな転換期を迎えています。市民の暮らしに直結する課題が複雑化する中、私たちは市民の声を丁寧に拾い上げ、実効性ある政策提言を行ってまいります。

今後の蕨市において重要となる新病院の建設は、市民の命と健康を守る基盤であると同時に、財政面での大きな挑戦でもあります。限られた財源の中で、持続可能な

医療体制の構築と、他の福祉・教育・防災施策とのバランスをどう取るか問われます。特に経営改善の側面からも踏み込み、赤字経営からの脱却を追求しています。こうした財政課題にも真正面から向き合い、透明性のある議論を重ねてまいります。

一方、学校教育においては不登校生徒向けの教室(エスタ)の開設や、災害対策においては浸水センサーの設置など、私たちの要望がしっかりと形になったものも多くあります。これからも地域コミュニティ豊かと言われるこの蕨で、市民の皆様が安心して暮らしていけるよう邁進してまいります。

会長 前川やすえ

市民相談のご案内

前川 やすえ	Tel.048-446-3740	大石 圭子	Tel.048-431-0431	古川 歩	Tel.048-433-9887
比企 孝司	Tel.048-444-0458	橋本 よしかね	Tel.048-441-5375	庄野 航二	Tel.048-443-0660
岡田 みきお	Tel.048-444-8810	金丸 けんじ	Tel.090-6108-5841		

中心市街地活性化プランの具現化によるにぎわい創出

現在進む藤駅西口再開発を契機に、中心市街地活性化プランを具現化。商業文化を融合させ、市民や来訪者が集うにぎわい・交流を創出し、地域経済の活性化と持続的発展を実現できるように要望します。



市へ要望書を提出

DX人材の育成・確保とデジタル戦略の推進

DX基盤の整備・人材育成で



自治体でも業務効率化と行政サービス向上のためAI、RPA（定型業務をロボットが代わりに行う）、kintone（プログラムを書かずにアプリを作成）などを導入しています。

今後、DXの促進は精力的に取り組む自治体とそうでない自治体で、その差は大きく広がります。藤市でも導入を始めており、これらを抜える人材の育成が急務です。

公共施設・教育施設などの令和8年度予算 総合管理計画の改定

本市の公共施設の80%は1970年から1990年に建設されています。耐用年数は60年といわれ大規模な改修や更新の時期は2030年までと予測されます。ほとんどの学校舎は耐震化工事のみであり判断を迫られています。管理計画は示されています。築59年の東小を筆頭に西小・中東小の校舎が限界を迎えようとしています。早期の計画策定を要望します。

重点要望

1. 市民に求められる市立病院基本設計・経営計画の策定
2. 藤戸田衛生センターの速やかな復旧と再発防止対策
3. 地域共生を核とした外国人施策の強化
4. 中心市街地活性化プランの具現化によるにぎわい創出
5. 公共施設・教育施設などの総合管理計画の改定
6. ひとり一人の未来に寄り添える教育環境のさらなる充実
7. 災害対策の強化・拡充
8. DX人材の育成・確保とデジタル戦略の推進
9. 地域経済を支える小規模事業者への必要な経営支援
10. 介護予防・地域包括ケアの充実
11. ライフステージに応じた健康づくりの推進
12. 防犯対策の推進と体感治安の向上
13. 錦町土地区画整理事業の早期推進

ひとり一人の未来に寄り添える教育環境のさらなる充実

届けて来た市民の願いが実現に向けて動いています。具体的には「学校トイレの洋式化、不登校生徒の居場所開設、発達障害の児童への支援体制、困窮家庭向けの支援、日本語教室やDXルームの開設、自然体験の充実、市民公園内のボール広場整備、第二子以降の給食費無償化」などです。市のアングレートで見えた、ヤングケアラーや、子ども達の悲痛な声への早期対応も要望します。



ライフステージに応じた健康づくりの推進

健康は幸せに暮らすためのキーワードであり、防災同様に自助、共助、公助の視点が重要です。個人の努力に加え、公助として歩きやすい道路の整備や行動改善を促す啓発など、市民の一生に寄り添う総合的な健康づくり施策の充実を要望します。現在、藤市は85歳以上や独居高齢者が増加中。住み替えが困難な住宅問題や生活支援、認知症への不安に対する家族を含めた相談体制、市内介護サービス業者の支援強化などが、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために不可欠です。

災害対策の強化・拡充

藤のリスクとして、避難所収容人数に対して人口が多いこと（在宅避難も有効）、外国人比率の増加（13.7%）、独居高齢者の増加、町会を基盤とする自主防災会の高齢化、屋間人口の少なさ（＝帰宅困難）などがあります。また、市の備蓄は7.3万食なので7.6万人の市民は各自で飲食や簡易トイレの備蓄が必須ですが、周知は足りていません。公助は進めつつ、外国人住民も含めて市民が正しく備える為の自助の啓発や、共助の支援を要望します。

必要な備え

水：1人1日3回を7日分
トイレ：1人1日5回を7日分
常備薬、生理用品、食料、缶詰、野営シヤムス、カセットコンロなど

地域経済を支える小規模事業者への必要な経営支援

藤市では、小規模事業者を支えるため、店舗改装等に活用できる「魅力ある店舗づくり支援事業補助金」をはじめ資金融資制度や融資あっせん制度を実施しています。物価高や人手不足など厳しい状況の中、地域経済の要である事業者を守るため、私たちが派はこうした施策の拡充と実効性を求めています。

錦町土地区画整理事業の早期推進

藤市錦町の土地区画整理事業は、全85.1haのうち令和6年度末時点で約57.7haを整備し進捗率約67.8%、家屋移転進捗率は71.9%と徐々に前進しています。また、特色ある公園として新設予定の5つの公園や富士見公園の整備も期待されています。引き続き区画整理事業の早期推進と円滑な実行を求めています。

どうなる？市立病院

現状の課題

物価・人件費高騰
患者減による赤字増
建築費高騰

病院の維持には
毎年8億円以上の
市税が必要に？

市立病院を一度も
利用しない市民が多い
(特に南町・塚越)



全市民が期待できるビジョン・経営改善を！

改善案と要望

- 経営改善策を3月迄に明示 (前回プランは現実と乖離)
- 外来患者数の減少について、原因と対策の明示
- 新病院での外来・入院患者数の予測と根拠を明示
- 医療介護連携の強化を前提に、診療機能の再編を検討
- 有識者による病院運営への助言を拡充
- 利便性向上と広報の充実 (診療予約・交通・ホームページなど)
- 総じて、現状案で新病院建設を進めて良いかの判断材料の提示



適切な上水道料金を要求

昨年12月議会で「上水道料金を9.8%値上げする議案」が可決されましたが、わらび未来の会は「改定率が低すぎる」ことから反対いたしました。(賛成9反対8)

理由1 老朽化対応への懸念

市長が提案した低すぎる値上げ率では、市民が求める安定供給のための投資が行えない可能性が有ります。市内だけで全長18kmある水道管の耐震化率は55.3%です。命を守る水道の安全面も含めて、子や孫の世代にリスクや負担が先送りされる可能性が有ると判断いたしました。

理由2 数年後には資金不足や再値上げとなる

水道事業は、水道料金だけで運営するのが原則です。9.8%の値上げでは、去年まで約10億円あった資金が4年後にはマイナスに転じます。そのため、3年後に大幅な値上げが懸念されるにもかかわらず「負担の先送りではない」とする市の説明は矛盾しており、不誠実だと判断しました。

理由3 県内他市は安定経営のため25%～40%の値上げ

県の浄水場から買う水の価格上昇などを踏まえて他市は対応しています。水道の安定供給は堅持したうえで、困っている方々には、国・県からの補助金も活用し福祉政策や経済政策で支援すべきです。

理由4 市民審議会では38%の値上げを推奨

市が設置し市民が参加した審議会では計10時間にも及ぶ議論を行い「家計は大変だけれど、将来に負担やリスクを残さない。月に数百円の支出が増えなくても安心が最優先」との理由で結論を出しました。市民の責任ある熟議に対して、十分な説明をもって答えるべきです。審議会の意義が問われます。

新しい年も立春を迎えました。干支の午らしく年が明けてから駿馬のごとく駆け抜けぬけてまいりました。新年早々にはアメリカ力によるベネセエラ大統領拘束のニュースが世界を駆け巡り、その後の言動にも注目をするところであります。日本に目を向ければ、ガソリンなど一部高騰が抑制されたものもありますが、国際的な原材料価格の高止まりや円安による物価高騰など、家計や企業に大きな負担をもたらしている日本経済の立て直しを最優先に考える施策を期待するところでありませう。

茨市の令和8年度予算編成においても資材・人件費の上昇、人材確保の難しさなどを要因に、厳しい判断が求められております。地方自治体には限られた財源の中での選択と集中が一層求められます。

本市では、茨城西口の駅前再開発事業が着工から一年を迎え、街並みの変化が目に見える形で進んでいます。一方で市立病院移転建替事業、西公民館の老人福祉センターとの複合化事業、またゴミ焼却施設の火災に伴う修繕費・代替処理費用などが必要となり、本市の財政状況

はかつてない厳しさを迎えています。こうした状況に対応するため、私たち、わらび未来の会は「事業の優先順位付け・歳入確保策の強化・新病院建設に伴う経営改善の徹底・他市との広域連携によるコスト分散」といった具体的な財政対応策を進め、持続可能な市政運営を提言してきました。

未来を見据えたまちづくりの為に、外国人住民が14%を占める本市ならではの課題にも正面から向き合い、公共施設や上下水道の計画的な更新や、地域コミュニティの自律的発展を支える人材育成への投資などについて、厳しい財政状況下でも取り組む必要があります。

「わらび未来の会」は、市民の声を受け止め、透明性ある議論を重ねながら、「安心して暮らせる、未来に負担を残さない持続可能なまちづくり」を進めてまいります。午年の勢いにあやかり、停滞を打ち破り、市民の皆さまと未来へと力強く駆け抜けていく一年にしてまいりますので、ご支援よろしくお願ひ申し上げます。

令和8年 新春
茨市議会 会派「わらび未来の会」



茨市議会 保守系 会派
わらび未来の会
中面は①74億円の国からの物価高騰対策
②市政への要望を掲載

茨城中の「わらび未来の会」(旧「山崎」)にて、令和8年1月14日(日)午後2時から5時30分まで、前川、大石、佐倉、佐野、阿田

①約7.4億円の国からの物価高騰対策

1. 市民1人/7,000円分の「織りなすクーポン」をお届け
(利用開始が今年11月～と遅いため、前倒しを要望中)
2. 児童手当が支給されている子ども1人につき2万円を口座振込

※詳細な対策、織りなすクーポン：毎歳約5.2億円・市も1億円追加。子ども1人2万円、国が2億円全額を支出。

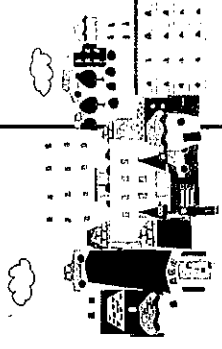
②192項目の市政要望を提出！ その一部を掲載します



要望全文はWEBに掲載。
こちらの2次元コードからご覧いただけます。

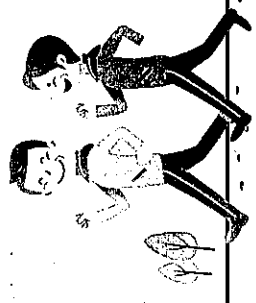
総務部

- ◎跡地等の有効活用 (市立病院、市立図書館、塚越プール、旧旭町公民館など)
- ◎公共施設予約システムのリニューアルとオンライン決済の導入
- ◎市内売地や特定生産緑地を市が保有する有効性について長期ビジョンを持った検討
- ◎日本人子育て世帯の転出超過について、危機意識を持った対策の検討
- ◎誰一人取り残さない市民に優しいデジタル化の推進



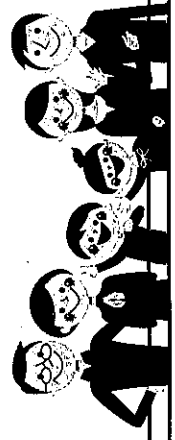
健康福祉部

- 福祉総務課**
 - ◎社会福祉協議会との連携強化(地域福祉の推進、権利擁護センターの設置)
 - ◎障がい者支援のさらなる充実
- 生活支援課**
 - ◎自立支援事業・学習支援事業の継続
 - ◎生活保護者の健康管理支援事業への指導・勧奨
- 子ども未来課**
 - ◎公立保育園・留守家庭児童室の計画的修繕(特に老朽化したエアコン、トイレ改修・照明器具)
 - ◎ヤングケアラーへの丁寧な支援(小中学生/約3千人への記名式アンケート結果を活用)
- 健康長寿課**
 - ◎介護予防・認知症予防のさらなる拡充
 - ◎増加している単身高齢者が相談しやすい体制の強化
- 保健センター**
 - ◎他課と連携した健康増進(ウォーキング環境・介護予防・地域活動デビューなど)
 - ◎市民が利用しやすいがん検診の検討



市民生活部

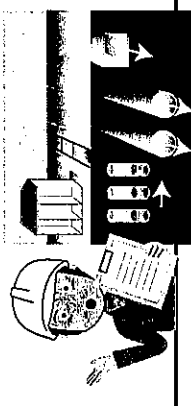
- 安全安心課**
 - ◎転入者等へのゴミ出しルールをさらなる周知・徹底。
 - ◎多世代が参加したくなるようなコミュニケーション活動の研究・推進
 - ◎導入した浸水センサーを基に浸水情報の配信(防災無線線や公式ラインも活用) 気象観測データの自動掲載システムの導入



- 商工観光課**
 - ◎空き店舗有効活用の具体的な推進
 - ◎公共用地を活用したイベントなど、にぎわい創出
- 市民協働課**
 - ◎多文化共生指針について実態に即した見直し

都市整備部

- まちづくり課**
 - ◎中央第一地区まちづくり事業を、にぎわいの起点や市民の憩いの場となるよう推進
- 道路公園課**
 - ◎市内で手持ち花火の出来る公園の研究



- 下水道課**
 - ◎事故の無い安定運営のため下水道料金適正価格について検討

教育委員会

- 学校教育課・教育総務課**
 - ◎小・中学生向け不登校対策の拡充
 - ◎きめ細かな指導に必要なスクール支援員などの増員
 - ◎対応困難なハラスメントで教職員が疲弊しない仕組み作り
- 図書館**
 - ◎新図書館に市民が創作した美術品やイベント宣伝などのスペース設置

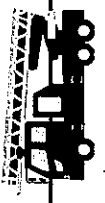
- 生涯学習スポーツ課**
 - ◎市民体育館アリーナへのエアコン設置
 - ◎こども達の遊び場として校庭・体育館開放の検討
- 公民館**
 - ◎シニア男性など公民館を利用していない層に特化した講座の開催(介護予防にも)



消防本部

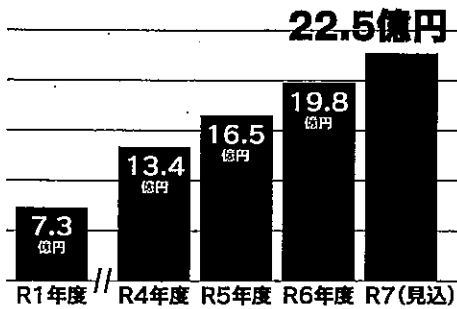
- 消防本部・消防署**
 - ◎はしご車・指令センターについて他市との共同運用を検討

- 消防団**
 - ◎装備の充実(個人装備含む)



データで見る蕨市立病院の「深刻な現状」

雪だるま式に増える
「累積赤字 (未処理欠損金)」



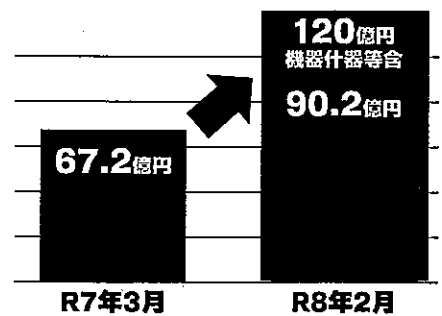
毎年の赤字が積み重なり、その額は約 22.5 億円に達しています。市も毎年数億円の繰入をしています。借金を返すために、職員の退職金のためにも使われる内部留保で補填するなど、手元のお金がない危機的状況です。

1年で3割回復 !?
「目標と現実に大きな差」

【入院患者】	【外来患者】
目標	目標
103人/日	107,812人/年
現実	現実
77人/日	99,565人/年

経営が行き詰った蕨市立病院は「経営危機打開プラン」を発表し、入院患者を約 3 割、外来患者を年間 8,247 人増やすとしています。わずか1年で約 4.66 億円の経営改善目標は非常に厳しい道とも思える数字です。

わずか1年で急増した
「新病院の建設費」

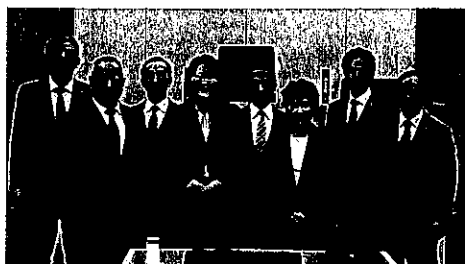


建設資材の高騰などにより、わずか1年で約 23 億円も見積が増額されました。しかもこの金額には医療機器などは含まれておらず、実質的には現時点で約 120 億円、今後更に上がると予想されます。

市・病院に対して付した「9つの絶対条件」

私たちは附帯決議において、以下のことを市と病院に強く義務付けました。

外部評価と透明性	外部専門家による支援体制 病院経営に精通した外部人材を導入	計画の抜本的見直し	立ち止まっただけの設計見直し 機能やコスト、運用の面から検証
	助言の徹底活用と議会報告 設計や人事、経営方針の全てが対象		必要ならスケジュール延長も 設計期間の延長や見直しも行うこと
	徹底した効果検証と共有 9月議会で今後の収支試算・経営方針を		地域医療との連携体制構築 地域全体で効率的な救急・医療体制
財政規律	今後10年間の収支見通し 維持管理や借金返済を含め市民に公表	税金投入(繰出金)のルール化 市民の税金から病院への繰出にガイドライン	「経営危機打開プラン」の改善 主要指標・目標値・打開策など



新蕨市立病院の建設は、蕨市の未来を左右する非常に大きなプロジェクトです。わらび未来の会は、真に市民のためになる安全な医療の提供と、現状の経営危機から1日も早く脱し、健全な財政運営が両立するよう、引き続き厳しくチェックし、具体的な提言を行ってまいります。